

# 防災科研の災害対応を振り返る

防災科研は、「基盤的防災情報流通ネットワーク、旧名：府省庁連携防災情報共有システム」(SIP4D)を活用した災害対応支援として、現地の災害対策本部に研究員を派遣し、地理空間情報をベースとした災害情報共有活動を実施してきた。2018年には内閣府との官民合同チームとして災害時情報集約支援チーム (ISUT) を試行的に立ち上げ、2019年から正式に設置されることとなった。その間、多くの自然災害が発生し、その都度現場での有効性が検証され、その方法や技術が磨かれ、徐々に現場での信頼も得られるようになってきた。ここでは防災科研の災害対応のこれまでの歩みを振り返る。

## 2014 SIP4D 開発開始

- 日本初の府省庁連携防災情報共有システムを目指して
- 保健医療、ため池をケーススタディとして連携開始

## 2015 災害対応開始

平成27年9月  
関東・東北豪雨  
現地対応期間  
9/11~9/30  
@常総市役所

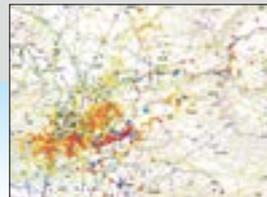
- SIP4D チーム初の災害対応
- 市災対本部と DMAT をつなぐ情報共有
- 災害対応現場重視の開発体制へ



## 2016 現地災対を支援

平成28年  
熊本地震  
現地対応期間  
4/15~8/31  
@熊本県庁

- 防災科研初の全所対応
- SIP4D プロトタイプ投入・検証
- 内閣府「災害情報ハブ」設置へ



## 2017 実動機関を支援

平成29年  
九州北部豪雨  
現地対応期間  
7/6~7/31  
@福岡県庁

- 自衛隊・消防・警察等の間で情報共有
- 内閣府「ISUT」設置へ



## 2018 ISUTの試行

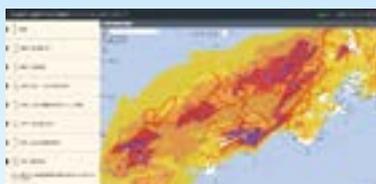
平成30年大阪府  
北部の地震対応  
現地対応期間  
6/18~6/22  
@大阪府庁

- 試行訓練から実践投入へ
- 民間データ+行政データ  
→自衛隊の入浴支援の意思決定に活用



平成30年  
7月豪雨対応  
現地対応期間  
7/7~8/9  
@広島・岡山・愛媛県庁

- 初の広域災害対応
- 複数道路データの自動統合
- 複数組織の中心に「SIP4D」  
を置いて議論



平成30年北海道  
胆振東部地震  
現地対応期間  
9/6~9/28  
@北海道庁

- 自衛隊機に同乗して現地入り
- 災対本部の中心に設置



# 2019 SIP4D活用技術開発 ISUT本格運用

■ 防災科研運営費交付金による研究開発へ



■ ISUT が防災基本計画に明記

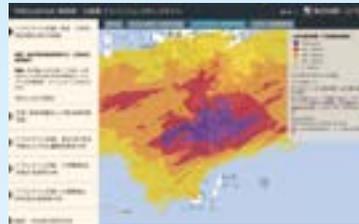


令和元年  
6月下旬の大雨

現地対応期間

7/3~7/5  
@鹿児島県庁

■ ISUT 本格運用開始後、初の現地派遣



令和元年  
8月下旬の大雨

現地対応期間

8/28~9/4  
@佐賀県庁

■ 実効雨量 + SNS 解析による災害動態解析  
■ 油流出 土砂災害などの二次被害への対応



令和元年  
房総半島台風 (台風第15号)

現地対応期間

9/10~10/4  
@千葉県庁

■ ISUT統一フォームの提案による倒木除去協働支援  
■ 防災チャットボットの展開



令和元年  
東日本台風 (台風第19号)

現地対応期間

10/13~11/20  
@長野・福島県庁ほか11ヵ所

■ 衛星データによる広域被災状況解析  
■ 府省庁からボランティアまでをつないだ廃棄物撤去協働支援



## 2020 災害対応の高度化

令和2年  
7月豪雨

現地対応期間

7/4~7/29  
@熊本・鹿児島各県庁

■ 時々刻々と変わる災害動態情報の提供  
■ ISUT-SITE を組織が自ら活用

